

並木健康くらぶ通信

並木病院 看護部教育委員会 平成31年1月 第15号



年頭所感

病院長赤津拓彦



新年明けましておめでとうございます。今年は猪年、私の干支です。個人的目標は「何でも前向きに」と「健康維持・増進・若返り」です。病院としての目標は当院のモットーである「患者のため、職員のため、地域のため」の推進です。

新年になって読んだ文章で二つ、心に響いた言葉がありました。一つは目指す理想の人間のエピソード、もう一つは社会的共通資本としての医療についての言葉です。

一つ目は、昨年「東海道新幹線「のぞみ265号」で発生した殺傷事件。小島一朗容疑者(22才)は「なた」を振るって乗客に襲いかかり、男性1人が死亡、女性2人が怪我をしました。お亡くなりになった男性が、梅田耕太郎さん(享年38)、東大卒、栄光学園の出身でした。横浜での出張を終え、

妻の待つ兵庫県尼崎市へと帰る途中の惨劇でした。乗客に襲いかかる容疑者を後ろから羽交い絞めにし、多くの乗客は逃げました。しかし、彼は凶刃に倒れました。栄光学園の校是に「MEN FOR OTHERS, WITH OTHERS」とあります。訳は、「他者のために、他者とともに」です。周りで苦しむ他者に目を向け、協調・協力し合い、問題解決のために喜んで自分を差し出すことのできる人間になる、これが校是でした。乗客を命がけで守った強い意志に、「ボーッと生きてんじゃねえよ」と頭をガツンと殴られたようでした。

もう一つは社会的共通資本としての医療、すなわち共助の医療について故宇沢弘文先生が述べた言葉です。「社会的共通資本としての医療と言う時、社会を構成する全ての人々が、老若男女を問わず、また、それぞれの置かれている経済的、社会的条件にかかわらず、その時社会が提供できる最高の医療を受けることができるような制度的、社会的、財政的条件が用意されている必要がある。」です。少子高齢化を始め、制約要因が多い中、どこまで実現できるかはわかりませんが、心に留めておきたい言葉です。

これらの二つの言葉は、人間として、あるいは社会の一員として、私達がどのようにあるべきか、考えさせてくれます。眼の前の患者様は、私達の同胞であり、仲間であり、家族です。医療者であろうがなかろうが、自分達の医療・看護・介護への思いを、行動として表していくことが大切です。全ての人々にできる限りの愛情を注げるような社会になることを願い、精進して参りましょう。

(右上の写真は川越氷川神社)



並木健康くらぶ講習会 第11回がありました

日時: 12月22日(土) 11:00~11:30

テーマ: 認知症について

講師: 大山ゆきえ看護師長



認知症に自分もなったら...と思うと心配ですね。単なる物忘れなのか、認知症の初期症状なのか...チェックリストを使って調べてみました。予防法についても説明がありました。

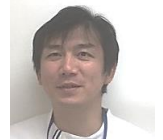


並木健康くらぶ講習会 第12回

日時: 2月16日(土) 11:00~11:30

テーマ: 人生100年の貯筋とは

講師: 三上理学療法士



アロマセラピー講習会のお知らせ (予約制)

日時: 4月 6日(土) 10:00~

テーマ: マイナスイオンとアロマセラピー

講師: 西井貴誠医師



A3病棟クリスマス会



病院忘年会にて

編集後記



各病棟ではクリスマスにハンドベルのミニ演奏会が行なわれました。「ドキドキしましたが、楽しかったです」スタッフSさんより。今年も教育委員、よろしくお祈りします。

A2病棟
手作りの門松



教育委員: 高野委員長、大山副委員長、今井、高橋(由)、根岸、渡部、橋本、中嶋、八木、前田、白砂